

《各学年の特徴》

- 3年 体験的な学習に関心の高い児童が多く、どの児童も意欲的に学習している。
- 4年 体験的な学習に関心の高い児童が多く、どの児童も積極的に実験や観察に取り組んでいる。
- 5年 課題に対する予想を文章で表現したり、予想を確かめる実験を計画したりすることができるようになってきている。
- 6年 課題に対する予想や考察を、根拠を明確にして、説明することができるようになってきている。

《全国学力・学習状況調査から見られる指導の重点》

- ・自然事象から問題を見出す力を身に付けさせる。
- ・知識を定着させ、その知識を次の学習に活用させる。
- ・実験器具の名称、用途を正しく理解させる。

育てたい力（課題）

- 3年 課題を発見したり、課題に対して予想したりする力
- 4年 課題に対して根拠のある仮説や予想を立てる力
- 5年 実験、観察結果を基に、根拠をもって考察する力
- 6年 既習の知識と実験、観察結果を関係付けて多面的に考え、課題を解決する力

☆授業改善の具体策☆

- ・安全指導の徹底
- ・ICT 機器の活用
- ・生活経験との関連付け
- ・実験条件を整理し、考察する活動
- ・基礎・基本となる知識習得の徹底
- ・見通しをもった取り組み
- ・実験や観察などの体験的な活動や話し合い活動の充実

《知識及び技能》

- 3年 知識の定着を図るために、実験や観察など、体験的な活動を設定する。
- 4年 知識の定着を図るために、実験や観察など、体験的な活動を設定する。
- 5年 基礎・基本となる知識の定着を図るために、既習事項を活用できるノート指導や掲示を行う。
- 6年 基礎・基本となる知識の定着を図るために、既習事項を活用できるノート指導や掲示を行う。

《思考力・判断力・表現力等》

- 3年 児童の関心を高め、自ら問いをもてるような事象を提示する。また、調べたことをマップやイラストなどにまとめ、友達と交流する時間を確保する。
- 4年 根拠のある予想や仮説を立てるための話し合いの時間を確保する。
- 5年 変える条件と同じにする条件を整理し、適切な実験を計画するための話し合いの時間を確保する。
- 6年 根拠を明確にし、より妥当な考察を導くために、複数の実験結果を基に、話し合いの時間を確保する。

《学びに向かう力》

- 3年 生活経験との関連から、自然の事物・現象に対して、課題を見いだす場面を設定する。
- 4年 生活経験や既習の知識から、自然の事物・現象に対して、課題を見だし、予想する場面を設定する。
- 5年 生活経験と既習の知識から、課題に対して自分なりの予想をもち、解決の見通しをもつ場面を設定する。
- 6年 生活経験と既習の知識を活用する課題を設定し、多面的に調べたり、予想と違う結果に対して試行錯誤したりする場面を設定する。